



スピード賞

アフリカ日本協働会行 (FAX: 03-5281-3425)

(TEL: 03-5281-3424 / e-mail: PK000143@niftyserve.or.jp)

お名前

[稲本 宏繁]

1月31日(土)の会員の集いに

出席いたしました申し付けありがとうございます

◎あなたのアフリカ、AJFに対する思いを自由に表現してください。(土曜朝11/28)

今は昔、ルワンダが平和だったころ、協力隊として、はりきで、
 ルワンダの地を踏んだことも、内戦のあった時に、
 帰国して、心、北の森、戻った時の、
 仕事場、帰国、
 ルワンダ、思ったけど、
 は、
 何かをやさしく、という思いは、
 でき、
 も、
 ち、
 唯一の物です。AJFの会報が、アフリカと自分をつなぐ
 た、
 あり、
 大、
 い

(乱筆で、ごめん、
)



ニュース賞

アフリカ日本協働会行 (FAX: 03-5281-3425)

(TEL: 03-5281-3424 / e-mail: PK000143@niftyserve.or.jp)

お名前

[宮嶋 真]

1月31日(土)の会員の集いに

出席いたしました

◎あなたのアフリカ、AJFに対する思いを自由に表現してください。(土曜朝11/28)

AJFの活動には以前から何らかの形で関心、興味を持っていて
 と考えているが、現状の日々の仕事に運んで来て、
 を受け取るだけの会員に、
 身内の取組を、今年度、アジア学院の学生
 20名のうちアフリカから来下人が4名、
 した後、行先不明に、
 に、
 行動、考えが分からず、
 生、
 というテーマの研究をして、
 性は、
 村には、
 活動、
 本はAJFの活動の中から、
 偏見の、
 学生と、



美術賞

「愛しのあなたへ……」
 少年のまなざし まっすぐに届く
 澄んでいるね
 青年の汗 キラキラ輝く
 たくましいね
 こんな風景、始めて向けた、私のカ
 メラ、私の写真
 やっと普通のアフリカが見えてきた
 (随分長い時間が流れたものね)
 アフリカ大陸にある様々な賞み
 それは
 特別なことではなく
 それは
 アフリカの素顔
 素顔の私が 今
 普通のアフリカと向き合っている
 *写真が2枚添付されていました。

第2回会員の集い配付資料

《会員からの意見》

◎会報について

- 会報について、最初はとっつきにくいものですが、最近は目を通すようになりました。一般の人にアクセスできるソフトな内容も必要ですが、単なる旅行記や、文化紹介は他誌でも見ることができるので、開発について、NGO について、地域事情について専門的かつ、わかりやすく書いて欲しいと思います。個人的には最終号の意識改革手法（南部アフリカで学んだ）の試みは、おもしろかったです。
- 一般の人々のアフリカについての関心呼びおこす情報提供を期待しております。勤務先での公務のために出席できません。
- 2/25より5週間米国へ滞在するた

め出席できません。最近、ニュースレターが益々充実してきている様に思います。読む方も非常に為になり、日頃あまり情報の入ってこないアフリカの動きの参考になります。大変だとは思いますが、これからも頑張ってください。

●会報は楽しく読んでいます。是非続けて下さい。

●冊子を送って頂き、ありがとうございます。冊子の内容ですが、時々専門的すぎるのか、自分にはよく分からないことがあって残念です。でも、イベントやセミナーを紹介して下さる点はとてもよいと思います。これからも頑張ってください。

●会報は、大変読みやすくしかも新聞などでは見落としてしまうアフリカ情報がきちんと盛り込まれているので、いつも編集その他会報づくりに関わっている皆さんには感謝しています。

●いつも情報誌ありがとうございます。2/28は別件の用事ありますので出席できません。宜しく願います。

●残念ながら、アフリカ出張のため出席出来ません。会報なり、会員の集いは、大変重要だと思います。協議員なり、会を引っ張っていくのは容易ではないでしょうが頑張ってください。次回は是非、出席します。

●会報有り難うございます。アフリカの情報として田舎で得られるのは個人的にはこの会報しかないということもご理解下さい。

●あまりお役に立てることはないと思いますが、会員の方々の声を聞きたく、出席させて頂きます。会報は私にとってまだ難しい記事も多いで

すが勉強になります。バックナンバーを何回も読み返す価値のあるものだと思います。

◎協力

●会報誌作成のためのワープロ入力等、お手伝い出来ることがありましたらお声をかけて下さい。

●TICADII に向けて参照する資料が増えてきたときに、それをどう処理するのでしょうか。入力作業などでお手伝いできるのであればご一報下さい。

◎激励の言葉

- いつもご苦勞様です。
- 残念ながら夜は全く動けません。尾関さん初め皆様方のご活躍を期待しております。
- 会員皆様のご活躍を期待いたしております。（不在の会員の保護者から）
- 当日は仕事上の関係で出席できません。御盛會をお祈りします。
- いつもご苦勞様です。なかなかご協力できなくて残念ですが、どうか皆さん頑張ってください。応援しています。
- 頑張ってください。！！！！
- 盛會をお祈りしています。

◎集いについて

- 集いを楽しみにしております。
- 参加者の方々と積極的に話しをしたいと思います。
- 会員なりたてですから、皆様の意見に興味があります。情報交換を期待しています。

◎協議会への関わり方

●当日は私達のグループの集まりがあるため参加できそうもありません。いつも欠席ばかりで申し訳ありません。

最近、AJFはNGOと会員の間で揺れていると思います。会員の皆さんもそのことを敏感に感じ取っているのではないのでしょうか。どちらも、大事だとは思いますが、多くの会員の方にとって会報がAJFとの重要な接点であることは間違いないことだと思います。その意味で今の会報はやはり少々ムズカシイのでは…。

●直接参加せず大変残念に思っております。今年は7月よりブラジルへ1年間行く予定ですので益々、疎遠になるかもしれませんが、ワスワヒリの会などを通じて微力ながら日本とアフリカの交流、協力の尽力したいと思います。

●組織運営は実に難しいことですが、皆さん協力してやっていきましょう。

●会報33号を読んで、AJFの財政的危機がここまで来ていたとは知りませんでした。協議会は会員自身の手で支えていくという認識が会員全体に欠けているのでしょうか。私自身も含めてただ会費を払って、会報が来るのを待つ、というのではなく、会員が会を動かしていく、運営に参加する。という形をつくっていくのが必要なんですね。私も自分なりの関わり方を考えてみます。

◎地方の会員から

●いつもお疲れさまです。その内、会員の集い近畿バージョンをやられる折には真っ先に駆けつけます。頑張ってくださいね。今後も宜しくお願いします！！

●遠方なことと当日は所用があって出席できません。御盛會を祈ります。

●なかなか東京へ足を運ぶことが出来ません。

●私は現在、九州に住んでおりますので、どうしても東京へ出ていく機会に乏しく、なかなか会員の集い等に出席することが出来ません。九州の方で活動されることは無いのですか。もしあれば、ふるって参加させて頂きます。

●いつも行ってみたいと思いつつ東京はやっぱり遠いです。集うことが出来る楽しさをめいっぱい味わえるそんな2/28にして下さい。まだ、路面凍結の日もあり春は東京と同じく遠い九重町ですが、Heartだけはみんなと同じに熱いです。Pour Afrique。でも今はHawaiiにも凝っています。「星の航海士」という本を読んで下さい。

●会員になったばかりなので、まだまだあまり会報についての意見等もないのですが、「会員の集い」のような会があるのは大切なことだと思います。なかなか東京までは行けないので、今回は欠席させて頂きます。関西でもそういった会が開ければと思います。

◎その他

●残念ながらまた出られません。暇を作って事務所に顔を出すつもりです。ご容赦下さい。

●本当に名前だけの会員でお役にも立てずすみません。

●ずっとご無沙汰ですみません。

●なかなか出席できず恐縮です。

●①アフリカと日本をつなぐNGOネットワークの存在が今後とも必要

であることは誰もが認めること。細くとも長く続けることです。無理せずに。②1月に発表された「21世紀に向けてのODA改革懇談会」報告書はNGOでの連携強化を提言しています。アフリカNGOネットワークの出番は必ず来ます。TICADIIまでとは言わず、長い目で見ましょう。③「アフリカNGO情報誌」みたいなもの有料制で刊行できないでしょうか。モノがあればカンバも集まります。

●ビルの件他について方向性を見いだす時でもあると思う。

《その他に届いた意見》

AJFはアフリカの情報の少ない、もしくは偏った情報になりがちな日本で貴重な情報源です。しかし、その反面、AJFを通じて知るアフリカは“アフリカ人講演者”、料理や音楽を“教える人”、シンポジウムの“ゲスト”そして日本人の“アフリカもしくは開発専門家”を通じたアフリカでした。そこで、何とか東京や日本在住のアフリカ出身者ともっと協力できないか？彼らとワークショップ、ビデオの上映、シンポジウムなど普段AJFがやってきたことをゲストとしてではなく、参加者としてAJFの他のメンバーと同じように開発の問題を考え、イベントを楽しむことが出来たら、活動として魅力的で、生産的ではないでしょうか？同時に彼らが日本で直面している困難を考えていくとが出来たら、AJFがアフリカと日本の相互通行のForumになると思います。(注:スペースの都合上一部だけ掲載致しました。)

NGOで働いているAJF会員の集い

3月7日アジア経済研究所国際会議場で、アフリカ日本協議会のもうひとつの「会員の集い」が行われました。昨年行った同様の集いが好評であったこと、理事からも強い要望があったこと等から、今年も開催の運びとなりました。通知が遅れてしまったにも関わらず、地方の会員2名を含め10団体等16名の参加を得て、活発な意見交換をおこなうことが出来ました。

前半では各団体の紹介も兼ね、団体が抱えている資金、組織、事業の展開の仕方、現地化の問題、ネットワーク化の問題等を語って頂きました。

【各団体の今抱えているの問題】

- 活動が専門化すると、一般の人々と離れていってしまう。ギャップが生じる。
- 現場にいと現地プロジェクトのことやどう現地の人にハンドオーバー化のことを一番に考えるが、日本に戻ってくるとやはり資金のことに頭を悩ませる。一つには公的助成金のあり方問題がある。
- 会の基盤の問題より、NGOとはどこにでも転がっているものだという印象をどうやって与えるか。一般の人に気楽なものしたい。
- 好きだからやっている、確実に面白いことをやると人は集まってくる。
- 活動を sustainable なものにするにはネットワーク、手法の変更が必要。それを日本でどう伝えるかが課題。
- 日本では会員からの会費だけではやっていけない。結局ボランティア貯金等助成金に頼っている。
- 経済的に難しい。バブルの時のNGOの発想とは切り離して考える必要。最低限の組織運営のあり方とは何か。
- 日本で資金を得るためには、賛同を得るようなアピール、一般の人々にとってとっかかりとなるような機会を作る必要がある。
- いつも同じ人が参加している。結局集まってくる人は少ない、先細りの現実がある。裾野広から

ない。NGOは一見華やかにみえるが支えているのは一部のNGOおたく。つまり天井にぶつかっている。

- アフリカ初心者と専門家というように会員の二層化が起こっている。どうつかず離れずの関係を作るか。自分たち側の理由ではなく、アフリカの状況、アフリカのNGOが求めるものから見た活動をやっていきたい。
- 問題は3つある。①アフリカの問題。やはり、アフリカは理解されていない。偏ったイメージ。②NGOの問題。NGOはまだまだ自立を考えていない。③アフリカNGOの問題。日本との接点が限られている。今こそ、NGO同士、政府側も含めて真剣に話し合うべき。開発のことを専門に考える人を育てていく必要がある。
- 一般の人に対する多面的アプローチをとって会員の増加をはかっている
- 学生や、一般の人は自分の感じていることをぶつける場がない。どうアクセスしたら良いか。日本のことも考えなくてはいけない。例えば、日本の林業をみてアフリカの砂漠化のことを考える。そういう広がりが必要。

【AJFへのコメント】

参加している人自身が現場を持っていることが最大のメリット。プロジェクトの形態をとっていない。柔らかい部分も堅い部分も両方大事だが、全部はできない。結局両方をつなげる人がいない、AJFができなかったこととして反省しているというAJF側のコメントに対して。

- wing を広げすぎた。よく頑張ったと思う。ただ、忙しすぎて息切れしているのでは。
- いろんなことをやらなくてはいけない。でも同時に取れんも必要。
- 良かったこととして裾野を拡げられた。
- A J F のメディアを通して活動を紹介できた。その意味では、give&take の関係。しかし、そのインパクトを考えたことがなかった。

【ネットワーク】

資金、組織問題からAJF自らイニシアティブを発揮するのは難しい。チャンネルを見つけて突破できるのか、ネットワークが本当に必要か、その役割を果たせるのか、そのポイントは何なのかという問題提起に対しては以下のコメントを得た。

- NGO組織は複雑に絡み合った会員のネットワークの上ののっかている。ネットワークは市民活動と同じで、動き始めるともぐっちゃう。つまり、どう動いているのか、誰が動かしているのか分からなくなってしまう。メカニズムは複雑。ネットワークを本業にするのは難しい。
- ネットワークを進めていくと目的が不明確になる。交通整理が難しい。言い出した人がやるものなのか。
- それは決めなくていい。つながっていけば良いのでは。

【TICAD】

その後、事務局からこれまでの活動を報告、中でも TICAD に関するこれまでの経緯を説明。昨年 11 月の準備会合に合わせてアフリカ現地 NGO からの意見を集約して意見書をだしたこと、日本における受け皿としてはアフリカ協会をとりまとめ役として、定期的にアフリカ2課から進捗状況の説明を受けていること等を報告しました。

- NGOの窓口がどこにあるのか、何ができるのかを明確に示す必要がある。それがなければ挫折する。NGOの面目がつぶれる。

- 本当にアフリカのイニシアティブなのか、それがなければ 10 月の本会議は意味がない。

●現地サイドは蚊帳の外の感がある。政府同士のチャンネル以外にどんなあり方、関わり方があるのか。

- 会報メディアで情報伝達する。
- 外務省側は知恵が欲しい、現地とのコミュニケーションが必要ということはわかっている。
- 関心のある人がいて、見たい、聞きたいと思っても個人では参加もかなわない。欲求不満になるだけでは？

●結局、今行われている NGO 会合にしても NGO からの参加は少ない。ある意味では TICAD は絶好の機会なのに。今は NGO が求められている。それで NGO 側からの提示が何もなかったら NGO との連携の実現がまた遠くなる。しかし現実、今は、NGO 側に技術力、資金力もなく、危機感が漂っている。

●外務省はリージョナル・ワークショップに NGO が参加できる方向を考えていると聞いていたが、もし仮に本当に参加できた時にどうするか？今は答えが示せず危機的状況。

●こうしが会議への参加への招待は直前になって届くことが多い。しかし、本会議までおそらく同様な状況で続くことが考えられる。招待がくるとしても直前。その中でどう、対応できるかが問われているところ。

●日本の NGO だけでなく、アフリカの NGO の方がインプットが大きいと思う。対等にやっていける現地の NGO の参加をつくれなかと考えている。

●そのアレンジがネットワークの役割では？

●NGO の機能性を活かすには資金的、組織的制約要因が大きい。TICAD が一つのきっかけとなることを望んでいる。

TICAD が日本のアフリカ開発にとっての一つの契機となりうる今年、NGO にとって好機となるようにどう展開していけるか、AJF も一緒に考えていきたいと思えます。

4年間の活動におけるNGOとの連携

(●: アフリカ現地NGO対象活動。マークなし: 日本NGO対象の活動)

①シンポジウムや報告会における活動紹介

- (1)合同報告会(3団体10回/1994年)
- (2)シンポジウム新生南アフリカと私たち(1994年10月)(反差別国際運動日本委員会・南ア黒人の教育を支える会、日本国際ボランティアセンター)
- (3)シンポジウム『沙漠化と取り組む』アレ企画における活動報告会(1995年1月26日・2月4日)(アフリカツリーセンターを支援する会、緑のサヘル、アフリカ教育基金の会、ミコノTAC、サヘルの会、西アフリカ農村自立協力会)
- (4)生活工房『見て触って感じるアフリカ!』におけるNGO活動紹介・物品販売(緑のサヘル、サヘルの会、日本フォスタープラン協会、日本中近東アフリカ婦人会、日本国際ボランティアセンター、アフリカ教育基金の会、ボランティアサザン・クロスジャパン協会、グローバル・ヒレッジ、サイディア・フラハの会)1997年、世田谷区)
- (5)公民館などでの理解講座へのNGO紹介(毎年4~5講座)
- (6)●JICA研修におけるNGO活動の紹介

2 活動紹介(原稿執筆)

- (1)NGO文集『体験から協力へ〜アフリカで活動するNGOは今』
- (2)日教組教育新聞(連載全20回のうち、4回)
- (3)会報イベントガイドによる報告会などの案内
- (4)ルワンダ支援NGO紹介(『地球市民』1996年12月)

3 会報での活動紹介

- | | |
|--|---------------------|
| 準備号: 緑のサヘル帰国報告 | 3号: 西アフリカ農村自立協力会 |
| 7号: 緑のサヘル帰国報告会、西アフリカ農村自立協力会 | 8号: 神戸俊平アフリカ友の会 |
| 9号: サイディア・フラハの会 | 14号: アジア・アフリカと共に歩む会 |
| 15号: 国際飢餓対策機構帰国報告会、アフリカ友の会帰国報告会 | |
| 20号: 緑のサヘル帰国報告会 | 22号: アジア・アフリカと共に歩む会 |
| 27号: アジア・アフリカと共に歩む会講演会報告、ムリンディ/ジャパン・ワンラブ・プロジェクト、SODECC、エコクラブ、函館アフリカ支援の会、アハルトヘイトを考える市民の会・広島、アジア・アフリカと共に歩む会、アフリカ平和再建委員会、SAVE THE CHILDREN CENTRE 日本事務局、サイディア・フラハの会、関西・南部アフリカネットワーク、アフリカ児童教育基金の会、アフリカの会、四万十・ナイルの会 | |
| 28号: ミコノの会 | 30号: 緑のサヘル、SODECC |
| 31号: 少年ケニアの友 | 32号: 西アフリカ農村自立協力会 |
| 34号: ムリンディ/ジャパン・ワンラブ・プロジェクト | |

④シンポジウム開催・国内ツアーの受け入れ

- (1) 1996年（女性が変わるアフリカと日本）：アマンドラ京都の会、静岡アフリカセンター、アハルトヘイトを考える市民の会名古屋、広島アフリカ講座
- (2) 1997年（食と環境）：アマンドラ京都の会、静岡アフリカセンター、社会開発協力センター（SODECC）、広島アフリカ講座

⑤現地調査への協力

- (1) 南アフリカ（1994年5月）：日本国際ボランティアセンター柴田久史（ミッションに派遣、現地でのアレンジ協力）
- (2) ルワンダ（1994年9月）：日本国際ボランティアセンター壽賀一（ミッション派遣）
- (3) 西アフリカ（ブルキナファソ、マリ、セネガル）：緑のサヘル山田高可（ミッション派遣）西アフリカ農村自立協力会（マリ現地での受け入れ）
- (4) ジンバブエ（1995年10月）：日本国際ボランティアセンター村上真平、壽賀一（ミッション派遣）
- (5) エチオピア（1996年9月）：日本国際ボランティアセンター（現地受け入れ及びアレンジ協力）
- (6) ジンバブエ（1997年8～9月）：市民フォーラム2001佐久間智子、日本国際ボランティアセンター壽賀一（ミッション派遣）
- (7) チャド（1998年1月）：緑のサヘル（現地での受け入れ及びアレンジ協力）

⑥ NGO 懇談会の開催・調整

- (1) 砂漠化防止条約事務局長来日時のNGO懇談会調整（1994年、1995年、1997年）
- (2) サヘルクラブ事務局長来日時のNGO懇談会の調整（1995年）

⑦ ODAとNGOの連携づくり

- (1) ●シンポジウム『新生南アフリカと私たち』に関連して、日本のNGOが支援している南アフリカのNGOの懇談会（南アフリカ、1994年）
- (2) ●GHプロジェクト形成調査での調査団とセネガル現地NGOの懇談会調整
- (3) ●JICA研修におけるNGO懇談会の調整

⑧ 国内・海外からの NGO 情報の転送

- (1) RIOD 他、砂漠化防止条約関連情報の転送（希望団体のみ）

⑨ 成果

- (1) ルワンダへのミッション派遣→新しいNGOの誕生（アフリカ平和再建委員会）
- (2) ジンバブエ調査→現地NGOトレーニングへの参加（日本国際ボランティアセンター）

収支決算書見込み(1997年4月1日~1998年3月末日)

支出		収入	
管理費		会費	¥2,316,000
交通費	¥29,560	一般寄付	¥819,581
人件費	¥1,133,340	講師派遣	¥181,218
出版・印刷	¥632,253	原稿料	¥463,602
消耗品費	¥112,158	事業委託金他広報収入	¥1,148,314
会議費	¥10,000	理事臨時寄付	¥930,000
家賃・光熱費	¥1,774,577	運営委員寄付	¥169,010
その他	¥60,083	事業部寄付	¥112,638
雑費	¥383,470	今年度助成金	¥3,784,612
通信費	¥962,436	調査参加者寄付	¥2,513,192
	¥5,097,877	その他	¥3,090
TICAD	¥274,719		
ワークショップ	¥2,661,935		
ネットワーク調査	¥2,861,694		
	¥5,523,629		
委託事業	¥863,191		
食と環境	¥300,793		
小計	¥12,060,209		
収支差	¥381,048		
支出計	¥12,441,257	収入計	¥12,441,257

助成金:
 住友財団 ¥2,000,000
 イオン財団 ¥300,000
 外務省民間援助支援金 ¥1,400,000
 その他に昨年度助成金の未収金として
 東京都国際交流財団 ¥884,612
 (前年度未収金として計上した額は80万。差額¥84,612を
 今期の助成金として計上した。)

貸借対照表
 (3月31日付見込み)

貸		借	
現金	¥46,061	出資金	¥0
普通預金	¥237,782	前期からの繰越金	¥402,795
郵便振替	¥0	今期収支差	¥381,048
立替金	¥0		
権利金	¥500,000		
	¥783,843		¥783,843

(作成:尾関葉子/奥田麻緒)

会員の皆様へ

1998年4月25日

運営委員会

新年度役員および運営委員の選出について

役員(理事、監事)および運営委員については、共に任期が2年となっており、現行の役員と運営委員の任期は1997年度で満了となっております。そこで、1998年度の役員・運営委員の選出についての手順をご報告申し上げます。ご意見、ご質問などをぜひお寄せ下さい。その際は、電子メール、FAX、郵送などで事務局きつげ運営委員会までお送り下さい。

【理事】

(任期について)

理事については、規約上2年の任期となっており(再選は可ばず)、現行の理事の任期は1997年度で満了となります。具体的には、98年6月20日の定例総会の場で新年度理事が選出された時点でその任務を終えることとなります。

(選出方法)

理事は20名以上30名以内の人数で、事前に、または総会の場で立候補した正会員から選ばれます。選出は、6月20日の定例総会の場でおこなわれます。

(今後の進め方)

理事につきましては、正会員の中から立候補を受け付けます。現行の理事の方も再任が可能です。立候補を表明される場合は、事務局まで簡単な自己紹介文を添えてお届け下さい。(再任の方は不要です。)総会当日(6月20日)に立候補を表明される方は、自己紹介文をご持参下さい。

【運営委員】

(任期について)

運営委員についても、2年の任期ですので現運営委員の任期は1997年度までとなります。現運営委員は次期運営委員候補選出、運営に関する諸事項引継が完了するまでが責務となります。

(選出方法)

現運営委員会が新運営委員のリスト(再任は妨げず、10名～15名以内)を理事会に提出し、理事会で承認をうけて選出されます。新運営委員は代表理事または理事会から会員に報告されます。

(裏面へ続く)

(新運営委員の責務)

新運営委員は今年度が移行期でもあることから、以下の2つの責務があります。①今年度の活動、運営に関する責任、②第2フェーズの方向性(理念、目標)、活動内容、組織・事務局体制を会員と検討し、規約改正を含めた新体制(案)を1999年3月の臨時会員総会に提出する責任。

(今後の進め方) 新運営委員立候補者を募ります!

新運営委員に関心のある方は、ぜひ方は事務局気つけ運営委員会までその旨ご表明ください。

立候補された方は、全員、現運営委員会や連絡に参加にいただき、一緒に討議を重ねる中で、最終的な候補者を選出していきたいと考えています。

地方の方からも候補を受け付けたいと考えています。運営委員会への参加などは現状の運営委員会が東京で開かれていることから、難しい側面もありますが、その方法も含めて検討していきたいと思っています。

なお、現運営委員会では通常の連絡網として電子メールのメーリングリストを使用していますので、電子メールをお持ちの方であれば、なお歓迎です。

(ア)JCコロン

(京式出題)

(式の紙の割合)

【員委賞状】

(ア)JCコロン

(京式出題)

(>別へ面書)

1998年1月のアフリカニュース

今号から、アフリカのニュースを1ヶ月毎にお知らせいたします。ニュースソースは、南アフリカ大使館から配布される、通信社などのニュースをもとにし、複数の会員の協力で翻訳をしたものです。

このニュースは、協議会事務局まで送られているニュース(オリジナルは英文)を会員の皆様と共有することを第一の目的としています。今号が最初の試みですので、言葉や表現の統一などが十分でない場合もあります。どうぞご了承下さい。また、レイアウトなどにつきましては、ぜひアドバイスを事務局までお願いいたします。

なお、固有名詞などに間違っていたり、不明確な点がありましたら、お手数ですが事務局までご一報願います。

(ニュースソース) SAPA-A:SAPA-AFP SAPA-D:SAPA-DPA SAPA ロ:ロイター BD:Business Day C:The Citizens

ガーナ

リマン前大統領死去。23日
イスラム教と衝突、四人が死亡、24名負傷。19日(SAPA-AFP)
圧力団体、VAT導入案棚上げを議会に求める。28日
北部で髄膜炎(meningitis)により3人が死亡。22日(SAPA-AFP)

ガンビア

新外務大臣に Jobe 氏 19日(ロ)

シエラレオネ

数千人が食糧不足。22日(ロ)
Kamajorsの攻撃で4人死亡。25日
軍と武装民族勢力が衝突、35人死亡。26日(ロ)
Junta 二つの町を奪回。19日(ロ)

セネガル

Lamine Cisse 将軍がセネガルの内務大臣に任命 17日(ロ)

ナイジェリア

南ア企業ナイジェリアの鉱産資源を調査へ。26日
ナイラは 7.5% 価値を下げる。21日(SAPA-AFP)
クーデター計画で 50 人を越える逮捕者 21日(SAPA-AFP)
ナイジェリア中央銀行による3~5年の公債計画発表 18日(ロ)
ナイラ切下げ後、利子率上昇 22日(ロ)

リベリア

ECOMOGを敵対勢力と戦わせようとテラー大統領が画策。25日
大統領、シエラ・レオネ反乱指導者の釈放を要求。26日
西アフリカ平和維持部隊(ECOMOG)最終期限を経過しても踏みとどまる見通し 19日(SAPA-AFP)

DRC

IMFが改革支援、仏救援援助。29日
「レイムダック」国営企業を民営化へ。26日
カビラ大統領の元安全保障顧問が軍事法廷へ。28日
パン税の廃止へ 26日
旧ザイール官僚がゲリラ攻撃について非難される。28日
南東部アンゴラ国境付近で髄膜炎のため 32 人が死亡。26日
カナダ、DRCで大使館再開 22日
兵士、給料をめぐって暴動 22日(ロ)
公的計画、コンゴ鉱業における合併事業の可能性 19日(SAPA-AFP)
政府、すべての鉱業権の有効性の調査に乗り出す 21日(SAPA-AFP)

ガボン

ガボン鉄道、売却へ。23日

ブルンジ

ブルンジ国防相、ヘリコプター墜落事故で死亡。28日
ブルンジで反乱、フツ系ゲリラの襲撃

で 65 人が死亡 21日(SAPA-AFP)
ブルンジの首都北部で闘争の激化 19日(SAPA-AFP)

ルワンダ

旧政府軍に対する武器取引で新たな調査。28日
北西部でバスの襲撃、80 人が殺される 19日(SAPA-AFP)

中央アフリカ

台湾と断交。北京政府へ承認を切り替え。29日

ソマリア

モガディシュで今月コレラ患者が約 3000 人に。25日
ソマリアの対抗武装勢力、Baidoa から Aidid の駆逐を誓う 19日(SAPA-AFP)
26の派閥グループ、エジプトを激しく非難 21日(SAPA-AFP)

ウガンダ

軍、数百名を解雇へ。コスト削減の為数百人を。29日
北部で反乱勢力が活動。29日

エチオピア

世銀の支援は継続。道路、エネルギー、教育、医療保健分野に 12 億ドルを計上。25日
世銀への債務は 15 億ドル(1950年代から総額) 23日

ケニア

Leakey のケニア議会への指名確認 22 日(ロ)

モイ大統領当選の無効を訴えた申立書を Kibaki が提出。22 日(ロ)

ケニアの改革ロビー、全国会議執行評議会、武装を呼びかけ。29 日

ナクル近郊で緊張高まる。29 日

外交官と司教が民族衝突に関してケニア政府を非難。28 日

外国人観光客、マサイ・マラ国立公園で襲われる。26 日

エルニーニョ現象による季節はずれの大雨で農産物大幅減の見通し。26 日
財政危機。洪水救済と公務員の給与支払いは急務 19 日(ロ)

スーダン

元対抗反乱勢力が戦闘を停止 19 日(SAPA-AFP)

1 600 人の反乱者が南部でスーダン人民解放軍(SPLA)から離脱 21 日(SAPA-AFP)

アンゴラ

エリツインが UNITA に渡航規制。26 日
南アフリカ機の乗員・乗客、起訴へ。

禁輸措置に反すとして。23 日

アンゴラ警察、Milunga で元反乱者の隠した武器を発見 19 日(SAPA-AFP)

ザンビア

教会が非常事態宣言を非難。26 日

非常事態を 3 カ月延長。29 日

与党 MMD 幹部がクーデタ未遂容疑で逮捕。28 日

援助削減対策で新税導入予定 21(ロ)

ジンバブエ

大統領土地改革公約に消極的 19 日(SAPA-DPA)

IMF 白人農場主への補償要請 24 日
クリントン、アフリカ歴訪でジンバブエを

対象から外す。「スケジュールの都合」と。29 日

土地改革についての保証を受け IMF が信用供与へ。28 日

土地押収計画に関してその提供者と話し合い。大統領は依然農場押収に強気。22 日(ロ)

政府、とうもろこしの価格の上昇を見合わせる 19 日(ロ)

援助制限、ジンバブエの土地押収計画を遅らせる:EU。19 日(SAPA-AFP)

スワジランド

旅行者はマラリアに注意 21 日(SAPA)

ナミビア

スジョマ大統領、土地再分配の目標を設定。29 日

核燃料廃棄物の輸入禁止へ進む 21 日(SAPA-AFP)

ボツワナ

ナミビア国境確定委員会設立。25 日

マラウイ

野党、大統領 Muluzi を攻撃 19 日(SAPA-DPA)

北京との外交は結ばない。文部大臣が台湾で報告。21 日(sapa-DPA)

モザンビーク

ペイラでコレラが蔓延。28 日

パルククラブ、モザンビークの負債の 80%削減に賛同

外務大臣南部アフリカ地域会議において水問題を議論へ 19 日(SAPA/A)

レソト

レソト選挙準備について国内で見解わかれる。26 日

南アフリカ

農村部貧困撲滅運動に 8500 万ランド。

東ケープ州、クワズールー・ナタール州、北部州の再貧困コミュニティで。(BD 980109)

EU、保健医療組織に 4800 万ランドを援助(BD 15日)

インフラへの支出に勢い(BD20 日)

金価格の低迷が 100 万人の南ア人に悪影響(C16 日)

アルジェリア

アラファトがアルジェを訪問。25 日

国連代表団の訪問を認めるよう EU が要求。26 日

最近の暴力事件で少なくとも 71 人が死亡。25 日

サウジアラビア、アルジェリアにおける殺戮解決に支援 20 日(SAPA-A)

エジプト

イスラム過激派、停戦を検討。29 日

イラク、エジプト人囚人釈放へ。26 日

イラクへの武力行使に反対。26 日

オルブライト、イスラム祝日明けにエジプト訪問へ。カイロ 1 月 28 日

エジプト警察、ルクソールの暴動の後、数十人を拘留 18 日(SAPA-AFP)

リビア

フランスで DC-10 型機爆破事件の調査が終了。29 日

西サハラ

国連部隊展開を決定。26 日

本文の転載・引用の際は英文オリジナル(事務局にあります)を参照の上、南アフリカ大使館または、情報もとの通信社等にお問い合わせ下さい。

4 月より、不定期ですが、FAXでも週間でニュースが取り出せるようになります。取り出し方はFAX イベントガイドと同様です。ご不明な場合は事務局へお問い合わせ下さい。

イベントガイド

3月下旬～4月上旬のイベントです。詳しい内容につきましてはそれぞれの問い合わせ先にご連絡下さい。会員の方はお近くのファックス機から取り出せる“週間”イベントガイドもご利用下さい。入会の時に、ファックスイベントガイドの取り出し方法をお送りしておりますが、不明な方は、事務局までご連絡下さい。

東京周辺

■FASID BROWN BAG LUNCH (昼食懇談会)

第29回

日時：3月25日(水) 12:15～14:00

場所：FASID 第1研修室

トピック：開発経済学と貧困

講師：絵所秀紀(法政大学経済学部 教授)

*昼食持参で。

締切り：開催日3日前までに参加申込用紙をFAXする

問合せ：(財)国際開発高等教育機構国際開発研究センター

■第33回アフリカ・カルチャー講座

熱帯アフリカの自然とその変動

熱帯アフリカの環境変動について、特に“砂漠化”の実像についてお話頂きます。

講師：門村 浩(立正大学教授)

日時：第1話 3月26日(木) 18:30～20:30

第2話 4月3日(金) 18:30～20:30

会場：目黒区民館内目黒区中小企業センター

第1集會室(目黒)

料金：1000円

定員：40人

問合せ：(株)道祖神

*講座開催日前日までにお申し込み下さい。

■エコパートナーシップ東京会議

一循環型社会の文明を創る-

分科会1- 地域の循環の仕組みづくり

分科会2- 循環型社会の実現に向けた国際協力

分科会3- 循環型社会の文明

報告：コフィ・アナンまたはニティン・デサイ(国連事務総長または事務次長)、青島幸男(東京都知事)他

会場：東京国際フォーラム(有楽町)

問合せ：都市と市民の国際協力世界会議 実行委員会事務局

電話：03-5388-1334/FAX：03-5388-1329

e-mail:ccc-info@tokyo-teleport.co.jp

URL:http://www.tokyo-teleport.co.jp/world-ccc

関西

■東京からギニア人パーカッションスト

ュールとアブーがやってくる!!

[アフリカの太鼓・ジェンベコンサート]

日時：4月26日(日) 14:30～

会場：まだま村

(行き方は直接まだま村までお問い合わせ下さい)

料金：3800円/前売り3500円(お飲物、軽食付)

問合せ：まだま村(電話0726-49-3800)

[ジェンベ・ワークショップ]開催予定

日時：4月25日(土)

問合せ：アフリカの

■写真・絵画・雑貨展「魂のアフリカ」

あおそらるか作品展

会期：4月15日(水)～/会場：まだま村2階

(行き方は直接まだま村までお問い合わせ下さい)

*4月18日(土)15:00～アフリカのお話会があります。

問合せ：まだま村(電話0726-49-3800)

■シンポ「アフリカの歴史と経済をどうよむか」

1.「アフリカの歴史を書く視点」

2.「フィールドと世界経済をつなぐもの」

日時：3月24日(日) 13:00～17:00

会場：京大会館(左京区吉田河原町15-9)

参加料：無料

問合せ：日本アフリカ学会

(京都大学総合人間学部福井研究室：電話075-753-6614)

その他

■フェイルドステイツ～追われし者たちのアリア

橋本 昇 写真展：ソマリア、ボスニア、クロアチア、南アフリカ、ザイール、ルワンダ、スーダン、リベリアで、「争いの犠牲となる物言わぬ普通の人々」の姿を撮影しました。

大阪

日時：3月26日(木)～4月1日(水) 10:00～18:00

会場：コニカフォトギャラリー(入場無料)

(御堂筋エナジービル11階：06-252-5434)

札幌

日時：4月18日(土)～27日(月) 10:30～19:00

会場：コニカプラザ・サッポロ(入場無料)

(サッポロファクトリーレンガ館3階：011-207-4560)

■Population Action Internationalの出版物

“Africa's Population Challenge: Accelerating Progress in Reproductive Health”が出版されました。英語版、仏語版およびポルトガル語版(抜粋・概要)があります。興味のある方は担当者まで、その旨電子メールをお送り下さい。

連絡先：Tab Stacks <e-mail: tstacks@popact.org>

イベント掲載ご希望の方は、事務局まで

FAX あるいは電子メールでお知らせ下さい。

FAX:03-5281-3425/e-mail:PXC06143@niftyserve.or.jp

Developing World Mailing List

国際協力・地域開発メーリング・リストへの

参加のお誘い

趣旨：発展途上国での地域開発に興味を持った人が集まり、仲間を作り、情報・意見を交換する場として電子メールによるメーリング・リストを立ち上げました。私、会員の野田直人を中心に行っております。

テーマ：発展途上国への協力、特に地域開発に関することをメインテーマとし、それに関連する情報のやり取りを行います。

参加費：無料

問合せ：developing-adm@y7.com(管理者のアドレス)まで

至 急

ア ル バ イ ト 募 集

当社は、フランス語を中心とした翻訳業務、通訳派遣、およびコンサルタント業務を行なっております。
 今後の業務拡大に伴い、長期アルバイトをして下さる方を探しております。
 フランス語、また国際協力関連の仕事に興味の有る方等、ふるってご応募ください。

- ◎定 員 : 1 名
- ◎業務内容 : 事務所業務補佐（電話対応、書類整理、データ入力、文書作成など）
 翻訳業務の補助（校正作業など）
- ◎資 格 : フランス語または英語の知識の有る方（中級程度）
 ワープロ、データ入力の出来る方（マッキントッシュの経験があれば尚良い）
 年齢・性別は、特に問いませんが、若い女性向きの仕事です。
- ◎待 遇 : 時給 1,000円 以上（経験、実力を考慮）
 交通費 全額支給
- ◎勤 務 地 : 港区 南青山（地下鉄銀座線 外苑前下車 徒歩3分）
 （地下鉄 表参道下車 徒歩10分）
- ◎勤務時間 : 10:00 ~ 18:00
 上記営業時間内にて、週15時間以上勤務可能な方
 曜日・時間帯については、相談に応じます。
- ◎休 日 : 土・日・祭日
- ◎応募方法 : 履歴書（写真添付）を当社まで郵送して下さい。
 後日、面接日をご連絡致します。
 くわしくは担当者まで、お問い合わせください。

人 材 募 集

フランス語・スペイン語の通訳登録者募集

- ◎業務内容 : フランス語諸国（アフリカ中心）、スペイン語諸国（中南米中心）への出張（短期・長期）を行なう。
 主に、国際協力関連の調査団やプロジェクト等の同行通訳または業務調整等を行なう。
- ◎料 金 : 短期 2万5千～ 3万5千円/日
 長期 40万 ~ 55万円 /月、現地手当は別途支給
 実務経験・資格・実力等を考慮し、当社規定により判断します。
- ◎資 格 : 中級以上の語学力（フランス語またはスペイン語）を有する方。
 実務経験および海外赴任経験の有る方。
 技術通訳の経験また専門技術があれば、尚良。
- ◎応募方法 : 履歴書（写真添付）を当社まで郵送して下さい。
 後日、面接日をご連絡致します。くわしくは担当者まで、お問い合わせください。

CHIC シック・ジャパン 株式会社

〒107-0062 東京都港区南青山2-29-9 南青山リハイム104号
 TEL (03) 3470-9791 (代)
 FAX (03) 3478-9140 担当: 渡瀬・延藤